

### ポイント

## 地域商業と医療・福祉機関の連携で、高齢者が元気に暮らせる街づくり

福島県いわき市の南東に位置し、周辺に多くのベッドタウンを擁するロードサイド型の商店街。高齢者が住みやすい街づくりをテーマに先進地視察や勉強会を実施し、住民の高齢化に向けた商店街のあり方を追求。街の商業者と医療・介護、健康・福祉等の機関が連携し、高齢者の生活を充実させるためのサービスや健康フェスタ等高齢者向けのイベントを継続して実施している。また、助成事業では、お店の情報と医療・福祉施設等のマップを掲載した「鹿島ガイドブック」を作成し、高齢者の生活支援等に役立てている。

### 商店街情報

所在地：福島県いわき市鹿島町久保1丁目12-10-101  
地域の人口：347,542人、142,269世帯(いわき市)  
商店街の類型：地域型商店街  
会員数：99名  
店舗数：480店舗(主な業種構成：飲食店、美容・理容、雑貨、書店、家具、各種医療機関、介護・福祉施設等)  
TEL・FAX：0246-58-6139  
URL：<http://www.nkashima.jp/>



鹿島街道

### 商店街の概要と近年の環境変化

当ネーブルシティかしま(いわき鹿島商店事業所会)は、いわき市の県道「平・小名浜線」、通称“鹿島街道”のロードサイドで営業するショッピングセンター、飲食店、美容院、雑貨、書籍、衣料品等のほか、医療機関、福祉施設、保育園、銀行等の生活関連産業が結束し、平成元年に地域商業者の振興と住民等との交流による地域全体の発展を目的として設立された。会員の店舗は十分な駐車スペースを有する郊外型商業集積で、周辺にはいわきニュータウンをはじめとする大規模住宅団地が形成されており、モータリゼーションの普及とともに多くの消費需要を控えた地域である。

商店会が設立されて以降、地域では宅地開発等による人口の郊外化が進み、他所からの転入者が増加して人々の交流は疎遠になる傾向にあった。このため地域が一体的に行動していくためのビジョンが必要であると考え、商店会に「街づくり委員会」を設置。1年間に亘る調査と検討、視察等を経て平成11年に「かしまリゾートビジョン」を策定。その後、急速な高齢化の進展や単身世帯の増加といった社会的課題が顕著になり、健康に配慮したまちづくりの必要性が高まりつつあることから、平成18年に、鹿島地区地域振興協議会の中心メンバーとして、地域住民とともに「鹿島地区まちづくり構想」を策定。構想では、魅力ある商業空間の形成、地場産業ネットワークの形成とともに医療・福祉機能の活用やお年寄りとのふれあい、子育て支援等の方向が盛り込まれた。

また、先の震災による原発事故で、相馬・双葉両地域からの避難者の仮設住宅が多数整備されたことから高齢者が増加、エリア内の病院や福祉施設の利用が増加するという状況も発生した。こうした中で商店会では、国の助成を活用して「医商連携」に関する住民のニーズ調査の実施や、県の助成を活用して「高齢化社会における街づくり」を検討し、商業と医療・福祉の連携による街づくりを進めてきた。

### 助成事業の概要とその成果

当商店会では、設立以来「安心で活力ある長寿社会に向けた豊かな地域づくり」を目指して医療・福祉機関との連携による事業や、ユニバーサルデザインの普及等に取り組んできた。助成事業では、これらの医商連携をさらに推進していくための検討会や講習会、店舗情報と医療・福祉情報等を総合的に盛り込んだガイドブックの作成等を実施した。



環境大臣表彰を受賞

### (1)高齢化社会に向けた講習会の開催

「高齢化社会と街づくり」をテーマに、東京大学から専門家の特任教授を招いて講演会を開催。会員や住民のほか学生や医療関係者、行政の担当等も参加され、地域全体で健康に配慮した「高齢者に優しい街づくり」について学び、医商連携に向けての街づくり会社設立の機運が高まった。

また、事業期間中は独自に、一級建築士による「住まいと住環境」、管理栄養士による「食生活について」、看護師による「医療と介護の連携について」、大学准教授による「情報通信システムについて」等の研修会を実施し、高齢者等の生活改善や支援の方向等について学んだ。

### (2)医商連携の先進地の視察研修

医商連携の先進地である熊本県の「健軍商店街振興組合」と、福岡県の「NPO法人地域福祉を考える会 そよかぜ」を訪問し、地域における医療・介護、健康づくりへの取り組み、運営のための組織体制等についてその状況を聴取するとともに意見交換を行った。

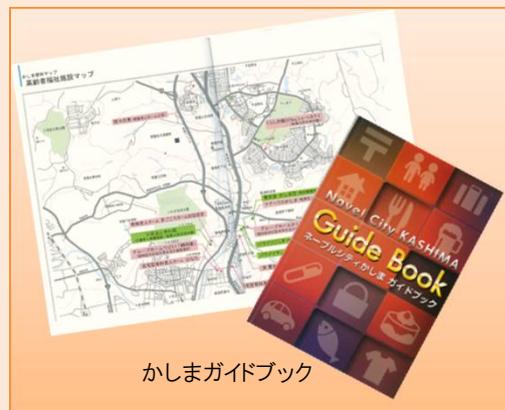
健軍商店街では、商店街ビジョンを作成して「医商連携による次世代街づくり事業」を推進するほか、地元の鹿屋体育大学の協力を得て「貯筋運動教室」を開催し、高齢者の健康増進に取り組んでいる。また、NPO法人地域福祉を考える会では、地元の商店街とともに地域の助け合い事業や介護保険にかかわる事業、介護職員養成研修事業等を実施して地域の福祉の向上に努めている。

こうした視察研修の成果を会員に報告するとともに、当商店会の実態と比較して、医療機関や福祉・介護施設、子育て支援機関等との連携の強化等今後の活動の方向付けを行った。

### (3)「ネーブルシティかしまガイドブック」の作成

ロードサイド型商店街という特性から街区が広範囲に及び、これまで各店舗の詳細な情報をまとめて伝えることが難しかったが、助成事業を利用して会員店舗の詳細な情報を収集。A5サイズ・フルカラー120頁にまとめて3,000部を発行した。

内容は、「飲食店」「小売業」「医療・福祉」など業種ごとに地図上に店舗をプロットしたマップを作成。これに各店舗の詳細情報を掲載したほか、かしま便利マップとして公共施設や医療・福祉施設、さらには史跡や公園、災害時の避難施設やバスの時刻表等の情報を盛り込んだものとした。この冊子を見て来店する新規の顧客もいるほか、業種を超えて会員同士の意思疎通も深まるなどの効果が出ている。



かしまガイドブック

## 助成事業以降の商店街活動

当商店会では、助成事業終了後も当会が中心になって運営している「鹿島地区地域振興協議会」等が実施する「いわき街なか健康フェスタinかしま」や「かしま福祉まつり」等に積極的に参加し、それぞれのイベントでは医療相談ブースを設けるなどして、地域住民の健康等に関する相談に応じている。また、鹿島小の児童による「地元鹿島の好きな場所」の絵と店舗の情報を掲載した「かしま まち歩きマップ」を作成し、イベント等で配布を行っている。

### (1)「いわき街なか健康フェスタinかしま」の開催

当商店会のほか、鹿島地区地域振興協議会、鹿島町区長会、福島県赤十字血液センター等で構成された実行委員会(事務局は当商店会)が開催する「いわき街なか健康フェスタinかしま」において、「医療相談ブース」を設けた。リスクを伴う治療や症状の原因と治療方法など普段の外来診療ではじっくり聞けない質問に医師や看護師に対応してもらったほか、AEDの講習、献血等を実施した。

また、イベントでは、フラダンスやコンサートなど集客のためのステージショーを行った。



健康フェスタ「健康相談ブース」は満員御礼

### (2)「かしまふれ愛さくら祭り」の開催

当商店会では、地域住民とともに鹿島街道を中心とした美化活動や、地区を流れる矢田川沿いの「鹿島千本桜」の植樹、保護、草刈り等を行っており、平成28年には地域環境美化として「環境大臣表彰」を受けた。「さくら祭り」は、千本桜が満開になる4月上旬に商店会が実行委員会の中心メンバーとなって開催。土手沿いの千本桜を鑑賞しながら、かしま焼き(お好み焼き風の名物)、すいとん、甘酒等の飲食ブースや、よさこいなどのステージ、フリーマーケット、抽選会が楽しめる地元根付いたイベントとなっている。



かしまふれ愛さくら祭りの様子

### (3)「かしま福祉まつり」の開催

平成28年で34回目となる夏の恒例イベント。当商店会をはじめとする鹿島地区の各種団体が構成される実行委員会が、特別養護老人ホームかしま荘を会場に、フラダンス、模擬店やゲームコーナーのほか健康相談コーナーを開設。車椅子での参加も多く、お年寄りとお若者・児童との交流の場となっている。



かしま福祉まつりの様子

## 自治体等との連携の状況



いわき市  
Iwaki City

いわき市は、人口の減少傾向が続く中で、商業においては小規模店や個人商店を中心とする商店数の減少、従業者数の減少、販売額の低下等が課題となっていることから、平成15年に策定した「いわき市商業まちづくりプラン」の見直しを行い、平成22年に新たなプランを策定した。新プランにおいては、個店の経営の改善や消費者との交流、地域ビジネスの創造、都市秩序の形成等を目標としており、この中で、地域住民の健康・福祉の増進に商業者が関わっていくことの必要性等が述べられている。

また、平成28年には「いわき市中小企業・小規模企業振興条例」を制定。市としての中小企業・小規模企業の振興に向けた基本理念を明確にするとともに、支援施策を総合的に推進することとしている。

商店街関係の主な支援施策は以下のものが講じられている。

#### ①市商工業活性化事業補助

商店街の組合など市内の商工団体が行う商店街活性化のためのイベント事業、近代化・活性化のための調査・研究、人材育成事業、イメージアップのためのシンボル作成等の事業について、事業費の一部を助成。

#### ②商店街街路灯維持補修事業

市内の商店会等が設置している街路灯の修繕やLEDへの改修を行う場合の費用の一部を助成し、商店街等の安全・安心等環境整備を推進。

## 商店街の今後の戦略

平成12年の介護保険制度導入により、特別養護老人ホーム等による施設介護から、ショートステイやデイサービスなど多様な支援メニューを組み合わせた在宅介護に重点が移った。これにより街区内においてもショートステイやデイサービス、ケアハウスやグループホームなど介護ニーズに合わせた施設の整備が進んだ。商店会では、こうした介護施設を地域の交流拠点として活用するとともに、児童と高齢者の交流を進めて互いに支え合い、元気になってもらうことが街の活性化につながると考え、介護と子育て施設の連携についても模索している。一方いわき市では、単身高齢者世帯の増加に伴い「高齢者見守り隊」の結成を進めている。当会も高齢者の買い物サポートに努めるなど市と協調していきたい。

また、商店街が立地する鹿島街道は市内で最も交通量が多く、震災時には大渋滞となり交通がマヒしたことから、渋滞緩和策や避難経路等災害時の対応について行政とともに検討を進めたい。

さらに、平成30年夏には「いわき小名浜イオンモール」の開業が予定されており、商圈が重なるため当会への大きな影響が懸念される。地域の少子高齢化が進む中で、医療機関、介護・福祉施設、子育て支援施設との連携を図り、子育てしやすく、老後も安心して生活できる商店街の特徴を打ち出して大型店との差別化を図っていきたい。



～ 仕掛け人 ～  
ネーブルシティかしま  
会長 庄司 秀夫

## 取材を通して明らかとなったこと

当商店会の地域は、大規模な団地を控えて大きな購買力があるものの、高齢化の進展が大きな課題となっている。こうした状況に対応して、医療・介護施設の集積度が高いという特性を活かして街づくりを進めている。また、「かしまリゾートビジョン」や「鹿島地区まちづくり構想」等のビジョン策定が基盤となり、こうした活動の延長線上に現在の医商連携等の諸事業が展開されている。

商店街活動には、周辺環境と消費者に提供できる資源は何かといった分析と方向付けが重要であるが、当商店会ではこれまでの調査研究による分析を経て街づくりの理念が形成されており、こうした過程には学ぶべきものが多い。また、環境大臣賞の受賞となった住民と一体になった地域の環境改善活動も、地域コミュニティとの連携という点で大いに参考となる。高齢化社会において商店街だからこそ可能な取り組みがあるはずであり、今後商店街が地域住民の期待に応えていく上で、一つの方向性を示した活動事例であるといえる。